

# 環境モデル6事業選定

## 川崎市 プール循環発電など

川崎市は12日、優れた環境技術の普及を後押しする「かわさき環境ショーウィンドウ・モデル事業」に、プール内の水の循環で発電する省エネ装置やオブジェにもなる球状太陽電池など6件を選んだ。9月下旬から順次、市内の導入施設を公開する。市民の環境意識の向上にもつなげる狙い。

ろ過装置のショウエイ（川崎市）は水の落差とポンプの吸引力を利用してプールの配管内で発電する装置を開発。水をろ過する際に使う電気の一部を自らの発電で賄う。寺尾サッシ工業（同）

や流体力学工房（同）などは折り曲げ可能な太陽電池パネルを張り合わせた「ソーラーボール」を共同開発した。直径2層のタイプで出力は1・2キロワットという。

看板業の近藤工芸（同）は昼間に太陽光で発電した電気を夜間の発光ダイオード（LED）照明に使い、農作物の生育を促すシステムを考案した。川崎市農業技術支援センターで収穫のサイクル短縮に役立てる。

このほか窓用の遮光・断熱パネルや、次世代照明の無電極プラズマライトなどを認定した。